

平成26年度
学校関係者評価報告書



実施日：平成26年10月17日

学校法人帯広コア学園

帯広コア専門学校

学校関係者評価委員会

1. 開催日時 平成26年10月17日(金) 16:00～17:00
2. 開催場所 帯広コア専門学校 21教室
3. 出席者(敬称略)

<出席 学校関係者評価委員>

| | |
|------|----------------|
| 小島修二 | 帯広北高等学校 校長 |
| 河合文宏 | 帯広商工会議所 事務局長 |
| 笠松信幸 | 帯広コア専門学校 PTA会長 |
| 菅野誠 | 帯広コア専門学校 校長 |
| 村川貴康 | 帯広コア専門学校 事務長 |

4. 意見交換(指摘事項等)

(1) カリキュラムについて

貴校での全学科における企業実習(インターンシップ)は、高く評価している。外に出て大人たちと接することはコミュニケーション能力を養う上でも重要である。

大学3年へ編入学している卒業生はいるのか?卒業後も上を目指せる環境にしてあげることが重要である。これは、学生の専門性を伸ばす上で学生の選択肢、可能性、モチベーションを上げる要因にもなる。

放送大学と連携しており本校入学時から放送大学の学生でもあるので、本校卒業後約60単位の互換があり通信で働きながら学び続けて学士取得への道はある。

(2) 連携について

幕別高校、音更の中学生が体験・見学に来ることはいいことである。

本校(帯広北高校)との授業の連携ができるといい。具体的にどういうことができるかを提案してほしい。

高校生に仕事でのやりがい等が伝わっていない。これは小学生、中学生のうちに職業の理解や楽しさを経験させることが必要である。キッズタウンでは小学生に仮想の街で「職業体験」や「消費体験」を通じて社会のしくみを学ぶ機会がある。このような中に「介護」「情報技術者」「観光」「医療ビジネス」の分野の仕事が紹介されるといい。

入学生の現象は構造的問題もあるが、企業にとっては人財の確保は重要である。学生数が減れば教員のモチベーションも下がる。直接的募集だけでなく企業等との連携により「魅力ある職業」の発信が必要である。

(3) 募集について

地元にあること、資格取得して就職ができること、札幌より授業料等の面で安価なことをもっと親御さんに知ってもらう。

オープンキャンパスで来校を待つのではなく、高校にプログラムを提供して高校生を呼びこむことや高校の教員に来校してもらい知ってもらうことが必要である。

なぜ札幌を選択するのか考えるべきである。

社会人の学び直し枠も周知したり工夫してはいいのではないか。

介護福祉科は専門実践教育訓練に認定されていることを社会人の方に周知することも大事である。

(4) その他

各学科企業実習等で頑張っているが、ボランティアでもっと外部の人たちと接点を持ちいろいろなことを経験すると良い。

以 上